



報道発表資料

2015年9月15日

先端IT活用推進コンソーシアム

**先端IT活用推進コンソーシアム、  
協働プロジェクト『空気を読む家』本格始動！  
～ IoTやDeep Learningなどの先端ITを活用し、  
住む人の居心地の良さを考えて実現する家を提案 ～**

先端IT活用推進コンソーシアム（会長：鶴保証城 元 IPA ソフトウェアエンジニアリングセンター所長、以下「AITC」）は、IoTやDeep Learningなどの先端情報技術（以下、先端IT）を活用し、生活する人の居心地の良さを考えて実現する『空気を読む家』プロジェクトを開始したことを発表します。『空気を読む家』プロジェクトでは、『マンガ駆動開発』<sup>(注1)</sup>でデザインを行い、『空間OS』<sup>(注1)</sup>技術を活用して、実証システムを構築します。

インターネットやスマートフォンの普及によって、さまざまな先端ITが人々の生活に密着した存在となりつつあります。そこで、先端ITの活用推進活動を行うAITCでは、先端ITの一つである「IoT」<sup>(注2)</sup>と「Deep Learning」<sup>(注3)</sup>に注目し、これらの技術およびその組み合わせの有効性を確認するための実証システムを構築します。本実証システムは、『空気を読む家』というコンセプトのもと、身近な人々の普段の生活の中において先端ITを活用するもので、実証システムの構築・評価を通じて、これら先端ITを実際に活用するための提案・提言を行うこと目指しています。

**『空気を読む家』とは？**

- ・ 『空気を読む家』は、「居心地の良さ」を考えて、実現する家です。
- ・ 『空気を読む家』は、「生活に必要なこと」を考えて、実現する家です。
- ・ 『空気を読む家』は、人々の行動を見て、世の中の知恵を取り入れ、成長します。

(注1) 『マンガ駆動開発』、および『空間OS』は、AITCが提唱し、研究を進めている技術です。これらの技術を含め協働プロジェクトの詳細については、2015年9月16日の成果発表会で報告いたします。

(注2) 『IoT』Internet of Thingsの略。物理的な「モノ」をインターネットやクラウドに接続し、情報交換することにより相互に制御する仕組み。

(注3) 『Deep Learning』深層学習。機械学習の一種であるニューラルネットワークを用いた人工知能技術。

現在 AITC では、以下の 5 つの部会が、それぞれ担当する先端 IT 分野の調査・研究および実装といった活動を行っています。

- ・ クラウド・テクノロジー活用部会（Deep Learning、センサー技術、画像認識）
- ・ コンテキスト・コンピューティング研究部会（集合知）
- ・ ビジネス AR 研究部会（空間 OS）
- ・ ユーザーエクスペリエンス技術部会（マンガ駆動開発）
- ・ ナチュラルユーザーインターフェース活用部会（ナチュラルユーザーインターフェース）

『空気を読む家』プロジェクトでは、AITC が提唱するプラットフォーム『空間 OS』を核として構成し、AITC が提唱する『マンガ駆動開発』を実践してユーザー体験（UX=User Experience）をデザインします。なお、『空気を読む家』プロジェクトの成果は、広く一般に公開していく計画です。

AITC は、企業や社会における先端 IT の適用サイクルを早め、また先端 IT に知見の深い技術者を育成するなど、先端 IT 活用による企業活動の価値向上に資するための活動を充実させてまいります。

#### ■本リリースに関するお問い合わせ先

先端 IT 活用推進コンソーシアム 運営委員会

E-mail: [staff@aitc.jp](mailto:staff@aitc.jp)

電話:045-752-0835 (田原)

以上